

2023年度 須磨学園夙川中学校入学試験

国 語

第 1 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校



次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

なにか事件や出来事が起こる。すると、その事件や出来事について「それは……だ！」という意見が一斉に押し寄せる。その一方で、「まったく違う！」という意見も反対方向に現れる。そして、人々の意見は、「これか、アレか」に分かれ、「これ」派と

5 「アレ」派の間で、相手を殲滅し尽くすまで終わらぬ激しいバトルの応酬が始まる。

インターネットというものが生まれてから、よく見かける光景だ。でも、ほんとうのところ、遙か以前から、繰り返し、そんなことはあったのだろう。いうまでもなく、そのもつともテンケイ的なものは「センソウ」であるわけなのだ。

しかし、ほんとうに、この世界は、「これか、アレか」で分けられるものなのだろうか。「これ」と「アレ」の間には、無限のグラデーションがあるのではないか。最近、そんなことをよく考えるようになった。みんなが「違う」というなら、わたしだけはい「同じだよ」といつてみたくなった。それは、なかなかおもしろいことのように思えた。そして、調子に乗ったわたしは、もっと先に行ってみたくなったのだ。

みんなが「こんなことは初めてだ！」とか「こんなの初めて見た！」というなら、あえて、「いや、同じことは、前にもあったんだよ」と呟いてみたくなったのである。つまり、「これは、アレだな」と。

楽しいことや心はずませることがある。びっくりすることやワクワクすることがある。その逆に、ガッカリすることや悲しくなることや恐怖を感じることもある。だが、そんなとき、わたしは、いつも、こう思うようにしている。「こんなことって、前にもあったんじゃないか」って。

10年ほど前、センメン所で子どもに歯磨きをさせていたわたしの目の前の鏡に、ずっと前に亡くなった父親が突然現れた。ほんとうにびっくりした。もちろん、それは、わたし自身の姿だったのだ。「なんだ、勘違いだったのか」と思った瞬間、驚くほど涙がこぼれた。それまで、わたしは、すっかり父親のことを忘れていた。なにもかもぜんぶ。ところが、目の前には父親がいた。それは、まったく同じ顔になったわたしだった。半世紀以上前に、

35 父親は同じように鏡の前にいて、子どものわたしに歯を磨かせていたんじゃないかな。そんな気がした。もしかしたら、祖父もまた、鏡を見つめて同じ思いに耽ったことがあったのかもしれない。あるいは、母や祖母や、もう亡くなった親戚たちみんなも。

40 なんだか自分がすごいものであるように感じるときがある。時代の最先端にいて、どんどん新しいものが生まれて、最新の知識

を持つているのだ。新しいのだ、わたしは。どんな時代の誰よりも……でも、そうなのかな。実のところ、わたしたちはみんな、両親や祖父母や、さらにずっと先輩のみなさんとほとんど同じことをして、ただそのことに気づいていないだけなのではないだろうか。

本を読む。映画を見る。テレビを見る。びっくりする。驚く。感動する。その新しさに。でも、ほんとうは、同じような本や映画やテレビ番組は、ずっと以前にもあったのだ。じゃあ、ゲーム

50 は？ ネットは？ SNSは？ 最新・最先端のそれらにも、実は、秘かに、同じなかが存在していたとしたら？
びっくりするよね。わたしだってびっくりする。そして、なぜそんなことが起こるのか、と調べてみたくなる。この本は、そんなわたしの探求のキロクである。

55 この本を読み終えた後、読者のみなさんは、誰ひとり、「 X 」などとはいわなくなるだろう（というか、元々、そんなことをいうような方は、この本の読者の中にはいないと思うけれど）。

「これは、アレだな」は、世界をユタかにしてくれる、魔法の言葉なのである。

(高橋源一郎『これは、アレだな』による)

注1 殲滅……残らず根絶やしにすること。

注2 グラデーション……段階的な変化。

注3 SNS……ソーシャルネットワークワーキングサービスの略。利用者がネット上で交流できるサービスのこと。

一の設問

問一 「よく見かける光景」(——線部ア)とありますが、それはどのような光景ですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 インターネット上で、お互いに顔も知らないのに口論が發生している光景。
- 2 事件や出来事が起こった時に、それを知った人から多くの意見が寄せられる光景。
- 3 同じ意見が、議論が進むにつれて「これ」か「アレ」かに分かれていく光景。
- 4 多数派の意見の持ち主が、異なる考えを持つものを一方的に殲滅しようとする光景。
- 5 ある意見と、その意見とは反対の意見がいつまでも激しく言い交わされている光景。

問二 「そんなこと」(——線部イ)とありますが、「そんなこと」とはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 議論の中で意見がひとつにまとまろうとしているときにこそ、反対の意見を言う必要があるのではないかということ。
- 2 この世界には二つの正反対の考えだけでなく、その考えの間に多様な考えが存在しているのではないかということ。
- 3 一見同じ考えであっても、細かな認識の違いによってずれてしまうことがあるのではないかということ。
- 4 自分自身の価値観は変化していくものであり、それに応じて自分の意見も変わっていくものであるということ。
- 5 周囲とは異なる意見を提案することで、お互いの考えが揺さぶられることをおもしろく感じるということ。

問三 「こんなことって、前にもあったんじゃないか」(——線部ウ)とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 よくないことは前にもあったのだから、あまり気にする必要はないということ。
- 2 どれほどの不幸も自分だけに起こる事ではないので、安心していいということ。
- 3 よくないことがあっても、いずれよいことがあるから前向きに過ごすのがよいということ。
- 4 よいかわるいかを決めるのは自分自身なので、考え方を変えれば受け入れられるということ。
- 5 はじめて直面する危機ではないのだから、過去の経験を活かせば乗り越えられるということ。

問四 「驚くほど涙がこぼれた」(——線部エ)とありますが、なぜ涙がこぼれたのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 かつての自分の父親のように息子と過ごす我が身を見て、父親としての務めを立派に果たせていると考えたから。
- 2 この年齢になるまで父親のことをきちんと考えることがなかった自分を、息子として恥ずかしく思ったから。
- 3 鏡に映る自分の顔が、思い出の中の父親とそっくりに見えたことで、自分が年老いたことを強く実感させられたから。
- 4 筆者自身と亡くなった父親の姿が重なることで、自分は一人ではなく、自分の中に先人がいることを思い出せたから。
- 5 父親をはじめとした親戚たちの姿が思い浮かび、多くの先人の積み重ねの上に自分が生きていることを痛感したから。

設問は、裏面に続きます。

問五 「そうなのかな」(——線部オ)とありますが、この言葉で筆者はどのようなことを言いたいと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 最新・最先端のものに囲まれているからといって、自分がどの時代の人間よりも優れているということは疑わしいということ。
- 2 様々なことができるからといって、自分自身が凄いのではなく、それは技術が優れているだけではないかということ。
- 3 今までにない新しいことのように見えても、自分が知らないだけですでにこの世に存在しているのではないかということ。
- 4 様々なメディアが生み出されることで、世界が広がったように思えるが、自分が認識できる範囲は変わらないということ。
- 5 現代になってから世の中が急速に発展しているように思えるが、先人も同じように技術を開発し、発展させていたのだということ。

問六

X

に当てはまる言葉を、本文全体の内容をふま

えて七字以内で書きなさい。

問七 「魔法の言葉なのである」(——線部カ)とありますが、なぜ筆者は「魔法の言葉」だと言っているのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 議論では相手に判断を任せることで、小さな考えの違いを気づかせずに受け入れさせることができるから。
- 2 異なる意見であっても、明確な言い切りを避けることで相手を傷つけることなく伝えることができるから。
- 3 世界の分断を避け、現在と過去の共通点を見つけることで、過去から現在にできる繋がりに気づかせてくれるから。
- 4 明確な表現をしなくても、お互いの意見の共通点を確認し合うことができる言葉なので、自分の本音を隠せるから。
- 5 自分の考えだけではなく、先人たちの積み重ねを意識させることで、発言への説得力を与えてくれるから。

問八

~~~~線部a eのカタカナを漢字で書きなさい。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

幼い頃、本の世界は遊び場だった。物語の中で、私は探偵になり、博士になり、冒険家になり、スポーツ選手になり、バレリーナになり、魔女になって世界を飛び回った。ページをめくる度に本は新しい世界を見せてくれた。本は私に知識を与え、違う角度から物事を見るように促し、自信を与えた。

札幌に住む平凡な小学生だった私だが、物語の世界に浸っているときだけは、自分の可能性は無限だと信じられた。だからその日に何があっても、私は本を開いた。そこには、自分と異なる環境で生き、自分と同じように悩み、学んで成長していく人間がいた。

10 図書館で書架を巡り歩き、本を選ぶ時間が何より好きだった。末っ子で女の子の私は、自分の意志を主張するのが苦手で、大人たちに干渉されがち。そんな私が、図書館の本棚の前に立ったとき、初めて「あなたの好きにしないさい」という権利を得たのだ。

「本を選ぶ」ことだけは、誰にも奪われない自分の権利。物語の世界なら、大人に干渉されることもない。

15 今も好きな作家の多くが、この頃に図書館で出会った作家だ。本は盾となり、私を守ってくれた。私が読書家であることを知ると、大人たちは一目置いた。本の話をするときだけは、大人たちは私を対等に扱ってくれたのだ。

20 読書のきっかけを得たのは、小学三年生の冬休みに父親が『レ・ミゼラブル』を図書館で借りてきたことだった。ジュニア向けに翻案したものだったが、二四〇ページ余りの二段組みで構成されていて、それなりの長さがあった。そんな厚い本は、電話帳以外に見たことがなかった。その一冊の重さを手にして、この手の中に世界のすべてがある、独り占めできる、と打ち震えた。

その日から物語との暮らしが始まった。頭まで布団を被り、足裏をストーブに当てながら読みふけた。習い事のヴァイオリンのレッスンに向かう車内でも、楽譜を広げるふりをして物語に浸った。感情移入した人物はコゼットだった。ジャン・ヴァルジャンという妙に響きのよい人物名を幾度となく唱えた。

30 布団に寝そべって『レ・ミゼラブル』を読み終えたとき、窓の向こうでは雪が降りしきっていた。読み終えたページに指を挟み、そこに詰まった活字を思った。小さな雪片が降り積もるよう

35 に、文字が積もって物語を成していく様を夢想した。  
小学校の図書室で、『ああ無情』という邦題の文庫本を見つけ  
た際、私は激しく「ダサイ」と思った。『レ・ミゼラブル』の誇  
り高い響きに比べて、しみつたれた演歌みたい。その隣には『巖窟王』が並んでいて、また大いに憤慨した。大好きな『モンテク  
40 リスト伯』を奪われた気がした。

現実と物語の世界は等価に存在した。それどころか、私はしばしば物語に圧倒され、「私も小説の中で生きられたらなあ」と登場人物たちに激しく嫉妬した。「自分の日常はなぜこんなにも退屈なのだろう」と、梨木香歩の『西の魔女が死んだ』を読み終えた後、ひしひしと寂しかった。

45 私は純粹に「読む」だけの存在に憧れた。物語の世界に没頭して、自分を忘れるような読書体験が理想だった。同時に、「読む」ことではか物語にかかわれない自分をどこか退屈に感じ始めた。やがて私は日記を書き始め、その大学ノートの中で、自分の言葉で語り、本の感想を綴るようになった。そのことが今の「書く」仕事に繋がっている。

(文月悠光「さびしいおおかみ」による)

注1 レ・ミゼラブル……一八六二年に発行されたヴィクトル・ユゴーの作品。十九世紀初頭のフランスの社会情勢を描いた。ミュージカルや映画にもなっている。

注2 コゼット……『レ・ミゼラブル』に登場する人物。後に出てくるジャン・バルジャンも同じ。

二の設問

問一 ~~~~~線部a~cの本文中での意味として最も適当なものを

後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- a 一目置いた
- 1 関わりとうしなかった
  - 2 敬意をはらった
  - 3 心配して見守った
  - 4 親しみにくさを感じた
  - 5 呆れて見下した
- b 幾度となく
- 1 忘れないために
  - 2 経験を積むために
  - 3 無意識のうちに
  - 4 くり返し何回も
  - 5 苦勞をしながらも
- c しみつたれた
- 1 貧相で見苦しい
  - 2 汚れが目立った
  - 3 幼稚で面白くない
  - 4 時代遅れのような
  - 5 響きが美しい

問二 「私は本を開いた」(——線部ア)とありますが、それは

なぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 現実の世界で自分の思い通りに物事が進まなくても、本の世界に浸っている時は、自分の望む姿で思うがままに振舞うことができたから。
- 2 札幌という限られた場所ではか生活できなくても、本の中であれば自由にさまざまな場所で新しい世界を体感することができたから。
- 3 その日に嫌な思いをしたとしても、本の世界で自分の望むまま自由に遊ぶことで、気をまぎらわすことができたから。
- 4 現実世界の平凡な自分に満足することができなくても、本を読むことでたくさん知識を得て、人間として成長することができたから。
- 5 つらいことがあっても、本の世界で現実と異なる体験をすることで、人並みの自分でもさまざまな可能性があるのだと自信を得ることができたから。

問三 「あなたの好きにしなさい」(——線部イ)とあります

が、この言葉から「私」のどのような気持ちを読み取れますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 いつも大人の顔色をうかがいながら物事を決めていた「私」にとって、はじめて大人に反抗できるようになったというよろこび。
- 2 気弱な性格であるために何を決めるにも自分の意志を通すことができなかった「私」にとって、やっと意志表示の場をもらえたという達成感。
- 3 何かを決める時には大人の意見を聞かなければならなかった「私」にとって、唯一自分の意志で決めることができたという嬉しさ。
- 4 大人に干渉されないと何も決められない優柔不断な「私」にとって、大人に見放され自分ひとりで決めなければならなくなったという孤独感。
- 5 常に大人によって干渉されてきた「私」にとって、自分の意志をはっきりと主張してよい環境になったという解放感。

設問は、裏面に続きます。

問四 「本は盾となり、私を守ってくれた」(——線部ウ)とありますが、ここに用いられている表現技法として適当なものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 体言止め
- 2 擬人法ぎしんぼう
- 3 倒置法とうちほう
- 4 隠喩いんゆ
- 5 直喩ちよくゆ

問五 「また大いに憤慨した」(——線部エ)とありますが、「私」が「憤慨した」のはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」の大好きな『モンテクリスト伯』の日本版の題名が気に入らないものだったので、新しいタイトルを自分で考えた方がましだと思ったから。
- 2 「私」にとって思い出深い本の日本版の題名が気に入らない上に、お気に入りの本の題名まで内容に不似合いだったから。
- 3 「私」が読書を始めたのは外国語の題名の誇り高い響きに惹かれたためであるのに、おかしな題名によってその気持ちを踏みにじられた気がしたから。
- 4 「私」のお気に入りの本の日本版の題名が「ダサイ」だけでなく、今の子どもが読む本の題名としてふさわしくないと思ったから。
- 5 「私」が大切にしている本であったが、ふさわしくない日本語の題名によって本の登場人物が馬鹿にされていると思ったから。

問六 「私」は本の世界をどのようなものと捉えていますか。そのことについて説明した次の文章の空欄に当てはまる言葉を本文中から書き抜きなさい。ただし、「A」には四字、「B」には二字の言葉が入ります。

物語に【A】すること、【B】と物語の境界が薄れて、【B】の自分を忘れてしまうようなもの。

問七 「今の「書く」仕事に繋がっている」(——線部オ)とありますが、どのようなことが今の仕事に繋がっているのですか。本文全体の内容をふまえて、七〇字以内で説明しなさい。

問八 本文の表現について説明したものとして適当でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 1行目から3行目にかけて、さまざまな登場人物を列挙すること、**「私」の楽しい空想をテンポ良く表現している。**
- 2 14行目の「本を選ぶ」という言葉に「**」(かぎかっこ)をつけることで、「私」にとって本を選ぶことが特別なことであるということを示している。**
- 3 32行目から33行目の「窓の向こうでは雪が降りしきついていた」という情景描写は、その後の「私」の夢想につながる表現となっている。
- 4 本文中に「私」の発言が散りばめられることで、「私」の考え方や心の声が直接的に読者に伝わるようになっていく。
- 5 本文全体を通して「私」から見た一人称視点で、「私」の本に対する思いや姿勢が回想的に語られている。

↓ここにシールを貼ってください↓

|  |
|--|
|  |
|--|

| 受験番号 |  |  |  |
|------|--|--|--|
|      |  |  |  |

|    |  |
|----|--|
| 名前 |  |
|----|--|

2023年度 須磨学園夙川中学校 第1回入学試験 解答用紙 国語

|    |   |   |    |    |    |    |    |    |    |
|----|---|---|----|----|----|----|----|----|----|
| ※  |   |   | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  |
| 問八 |   |   | 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
| e  | c | a |    |    |    |    |    |    |    |
|    |   |   |    |    |    |    |    |    |    |
|    | d | b |    |    |    |    |    |    |    |
|    |   |   |    |    |    |    |    |    |    |

(※の欄には、何も記入してはいけません)

一

|   |
|---|
| ※ |
|---|

|    |    |    |    |    |  |  |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|--|--|----|----|----|----|----|----|----|
| ※  | ※  |    |    |    |  |  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  |
| 問八 | 問七 |    |    |    |  |  | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 | 問一 |
|    |    |    |    |    |  |  | A  |    |    |    |    | a  |    |
|    |    |    |    |    |  |  |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |  |  | B  |    |    |    |    | b  |    |
|    |    |    |    |    |  |  |    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |  |  |    |    |    |    |    | c  |    |
|    | 70 | 60 | 40 | 20 |  |  |    |    |    |    |    |    |    |

(※の欄には、何も記入してはいけません)

二

|   |
|---|
| ※ |
|---|

|   |
|---|
| ※ |
|---|

